

オリジンチェイン「始まりの連鎖」

大2000

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

崩壊した世界、抗う者と助長させる者

明かされる世界の謎

善悪表裏一体

何かを犠牲して、前進するか

それとも後退して、維持するか

目
次

プロローグ・共通	1
チエイン側	レポート01
オリジン側	防衛記録01
真実	防衛記録02
オリジン側	防衛記録02

15 13 9 5 1

プロローグ・共通

【物語には、いつもヒーローが居た。ヴィランも居るでも、人は何時も傲慢だ。】

それを今、この瞬間、我々が開けた箱が希望に満ちたパンドラの箱だと理解出来るまで

彼女の言葉は、我々に届かないだろう。【人間は、興味心で禁忌を侵す】

森の中のいつも一人の黒いドレスの少女は、楽しそうに何時も我々に語りかけてくる。

今回の彼女の語る物語は、何時も希望に満ちていた。

光輝く始まりの巨人が居たこと、人々の自由の為に戦う風の仮面の戦士の罪、明日のために5人のレンジャーが駆け抜けた痕跡をして、紡いできた歴史と未来を語る。

そして、今しかないと我々が再び問う。「やつぱり教えてくれ！何故、世界はこうなった」

悲鳴を上げる様に細い声で希望にすがるように問う。

今までには、未だ答えは帰つてこないだが、今日は違つた。

「いいよ、教えてあげる……でもそれは、君の望む物……いや物語ではないよ」

少女は、無機質な表情で淡々と語り始めた。

【その始まりは、鏡……いや合わせ鏡のような実験だった】

何の話をしているんだ。声が出ない思考だけが、頭を駆け巡る。

【それは、正確には鏡じやなかつた。写っているのは、可能性【I_F】だつた】

ワカラナイ

【そして、厄災の扉を自らの手で開けた】

意味がワカラナイ

【世界の一部が重なり合うまで、それは知覚されなかつたわ】

何を言つてイル……

【始まりいや初期症状は、記憶混同と物の入れ替わりだつた】

そして彼女は、意味深な笑みを浮かべて語る

【それがやがては、物質変換へそして・・・世界が変わったのよ】

そして、空を見上げて何かを、見つめ金色の瞳と黒い笑みを浮かべる。

モニター画面に島が映る。宇宙からの監視映像でほぼ遅延が無いリアルタイムの映像だ。

会議室の中央の空中に映像が投影され、それぞれ制服が違う何人が、会議している。

日本の国旗のバッヂを首元に付けた初老の軍人が担当者に話しかける。

「エリア・ゼロの状況は？」

「変わりありません、ですが先の接触により対象A—01がどの様な事をしてくるか解らないのが本音です」

最後は、苦虫を噛み潰したような顔して話す担当者

「では、何もわからないと?それ「そうでは、ありません」

言葉を遮り強く否定する。

「今までにない位安定しております、それに「それは、自称専門家の話ではないのか?」

鬱積して、相手の揚げ足取りをする。

たじろぐが息を整えて胸を張つて言う担当者

「いいえこれは、先の接触の帰還者から、そして今までに取れたデータと他のエリアと比較して明らかに安定しています」

考え込む軍人、納得をして話し出す。

「解った、私の方はもう良い、次の国の方どうぞ」

そして姿が消える。姿を映していたプレートの接続が切れたのだ。

フェイスマスク型のVRマスクを外すと丁度良いタイミングで部屋がノックされる。

「どうぞ」

椅子に座り直しそちらに顔を向ける。

「お疲れ様です」

其処には、彼の部下が笑顔で何時ものコーヒーを持って部屋に入つ

て来る。

「あ～そうだな」

バツが悪そうに反応が悪い返事をする。

「どうしたんですか？あ～何時ものですか！」

ハツとした顔してコーヒーを渡していく。

「ありがとう……あれで、態度が良かつたのかな？と思つてな」

少し溜息混じりに言うと貰ったコーヒーを飲む

「いつも後悔ばかりですね」

またか！と上官を見る。

「んつー何だその顔は！おつと」動搖して飲み物をこぼしそうになる。

「普段は、渋くてカッコイイのに、いつも会議になると眉間に皺が寄つてるつて男女共に隊員が噂しますよ」

「マジか！……」驚き考え込むが世間話はここまで、話を戻す。

「そんなことは、どうでもいい話だ。所で進行状況どうなつている」
部下が厳しい状況を語りかけてくる。

「画面をご覧ください」

ディスプレイを起動される。

映つた映像を見つて二人とも厳しい顔する。

「ここ数年間、森の浸食範囲は、拡大していませんが範囲内の島々に特異生物の生息が確認されました」

映像に映る範囲が更に拡がるシルエットとAIによる字幕が表示される。

『エリア：ゼロ（旧日本国・旧沖縄県）』「既存動植物：0%」「浸食植物：100%」「新生生物：25～35%」「周辺浸食：0%」

そして、調査ドローンがある人物を映した画像を画面に表示する。

黒づくめドレスに、黒い髪、金色の瞳に三日月のような笑みを浮かべている少女が写し出される。

「これ、光学迷彩付きだろ？見て いるよなこつちをいや正確にはカメラの向こうの我々をかな？」

部下も初めて見るのか息を？ものが解り言葉を掛ける。
「落ち着けこれくらいの事で、動搖するな」

「…ハ、ハイ改めて、対象A—01は、敵対行動は我々の過剰干渉によるものです、森の浸食が止まつたのも関連性が不明ですが、新生生物は、関連が無い物と思います」

「何故だ、あの森で生まれたのだろう？」

不思議そうな顔して、質問する。

「新生生物の1体が対象に敵対行動して、消滅しました、その後、新生生物は対象を避けております」

ハツキリと答えを返す。

「彼女は…世界に何を望むのだろうな」

「それは…誰もいえ彼女本人でさえ解らないのかもしれません」モニターを見つめるが答えは、帰つてこない。

チエイン側 レポート01

日本時間 [PM 7:00]

『機密共有のサーバー』

ヤイバ 〈こんな時間にすまない 想定外の予定が入つて遅れてしまつた！

ラート 〈そんな心配しなくても良いのよ！元々ゆつくりとやる予定だつたのよ

アート 〈お前は、何時もの腰が低いなうそんなんじやこの先ついていけないぞ！

ヤイバ 〈すまない

ラート 〈だから謝らない！本当にあなたの悪い所よ！それ

アート 〈話がループし始めたから！本題に移るぞ！

ラート 〈なららくバツとして日本からね！

ヤイバ 〈了承した

ファイルロード 『JP01』

時期 江戸時代

季節 不明

場所 江戸？

発見された物 瓦版（新聞）

*原文通訳

それは、ある日明け方に始まつた、鳴り響く悲鳴のような轟音と揺れる地面で、世界が悲鳴を上げて様子だつた。現代時間で1時間の間、鳴りやまず。

補足

旧年では、これを歴史的大地震と記載していたが、他の瓦版（新聞）に巨大な鏡が現れそこには、神々の世界が在つたという記載が見つかり修正された。

現代

『ミラーゲート』初期実験中 時期
着物の格好した人物が街に出現しており騒ぎを起こした後に警察

に確保寸前で、強烈な閃光を放ち目の前から消えたとの事。

ファイルを保存中

アート「これ上記の補足のやつと同一人物か？」

ラート「それは、あり得ないことよ

アート「でも、最近だと本人でない同一人物と解釈されていたが？」

ラート「それは、最近の出た推論でしょ（笑）

アート「何だと（怒）文句あるのか！可能性が1%でもあれば検証することが大前提だ！」

ヤイバ「[冷静]に先ずは、議論より事件の精査だつたはずだ！」

アート「……そうだったな

ラート「……そうね

ヤイバ「続けよう

ファイルロード『JP02』

時期 1999年頃

季節 冬

場所 北海道航空自衛隊基地（詳細不明）

発見された物 F15J

観測された事象

前日に基地で、フルメンテナンス受けたF15J 3機が謎の戦闘機に変わっていた。

補足

事件後 機体を解体 データ国連に提供

得られたデータ

反重力機関、新型ジエネレーター、プラズマジェットエンジン、未知の材質

ファイルを保存中

ヤイバ「これは、有名な話だがな

アート「そんなに、有名な事件なのか？」

ラート「アンタの頭、单一思考なのそれともジョークなら〇点ね！」

ヤイバ「…」

アートへお前は何時も何時もb g d e f t g h d f v f g b
ラートへ何よ！アンタだつてh i s i o f g j s d f e g d *

ヤイバへ・・・・・人格プロセス【停止】

アート・ラートへ・・・・・コマンド実行・・・・現在プロセス廃棄
中・・・・完了

ヤイバへ現在ログを保存

ログ保存

【問い合わせ】実験結果を他のと比較しますか？

「いいや結論は、出ている」

誰かの声が響くそして、画面が消える。

実験環境

歴史的を作り出す事

対象

ラートへ

製造番号 B10 α

初期性格

女性ベース 天邪鬼 お嬢

基本プロセス

最高の結果を過程を無視して、効率的な結果を導き出す。

アートへ

製造番号 B10 β

初期性格

男性ベース 年上 兄貴分

基本プロセス

最悪結果を過程を考慮して、優先的に結果を導き出す。

思考分割人格型

上記の2つは、兄弟姉妹の関係であるが、互いを理解すより敵対行

動を良くする。

実験結果

注意この二つを並べると処理すると重大なバグの発生する恐れが在り。

この二つの破棄を検討する。

尚この実験で製造した歴史データを優先的にインストールしこの現状打破役に立つ情報です。

仮想A I 設定

ヤイバヘ

製造番号 Z99Ω

初期性格

男性ベース 義理堅い 律儀

基本プロセス

現状維持を目的として、最終的に最高と最悪を結果を導き出す。

オリジン側 防衛記録01

銃声が響き渡る戦場

見るも無残なこの争いをするのは、二つの勢力
1つは、壁を守り続ける兵士達もう一つは、

初期防衛地点

「HQ、ちら、防衛ラインが押されてる！敵の攻勢が激しい増援求む」
特殊コンクリートブロック（防壁）に身を隠しながら、通信する。
無線から、無謀な命令が出る。

「こちらからは、出せない戦況を維持しろ！」

テンプレートな返答に舌打ちをして応える。

「都合よく戦況維持だと！増援とEXウェポンの使用許可をよこせ！
沖縄最終局面のようになりたいのか！」

反論した瞬間、後方支援の特殊スマートグレネードとセンサーグレンードが、敵のセンサーを無効化し位置を特定する。

通信していた兵士は、武器で的確に敵を次々と打ち抜く。
「（・△・）チツ俺の国の作品を使いやがって」

防壁の後ろから皮肉を言つて、息を整えて狙い撃つチャンスをうかがう。

防壁から、出ようとした瞬間に通信が入る。

「全隊員に緊急報告あと30秒で門が不安定化、あちらと接続が切れます！」

粗方、片付けたため何時もの知らせに安堵するが、次の言葉に頭が真っ白になる。

「今！スカウト部隊より報告が上りました！門から大質量物体…：
コンテナが射出された模様です！」

「落下予測地点計算終了を端末に転送します！付近の隊員は、チャփを散布しますのでbi——gaagaagaaga

通信と敵の挙動が、おかしくなったのを見て焦り表示された腕の端末でビーコンを確認する。

「此処かよてか早い！」

急いで範囲外の防壁になりふり構わず走り出す。

次の瞬間、移ろうとしていた防壁まで吹き飛ばされる。

「グゥ！」

意識がと切れる。

後方支援地点

「隊長、複合偵察観測装置から結果出ました」

新人が、敬礼をして報告を上げる。

「新人！今防衛戦から、現場だつたな」

「はい！そうであります」

改まつて敬礼をする。

「新人、肩の力を抜けそんなんだと油断してるあのバカより早く死ぬぞ」

笑いながらアドバイスする。

「ん？おい！新人ゲートは、約2分前後で不安定化するんだよな？」

何かに、気が付き確認する。

「はい！観測データだと、その時間であちら側との接続が切れますが？何かに問題でも？」

「此処を見ろ！何時も不安定化する際は、複数の観測装置のデータがバラバラなのに、このデータだけ、一致してるぞ！」

リンクされたデータを見せる。

「え！それだと、えっと」

新人は、考え込むが自分は次を準備しながら通信をする。

「HQこちらスカウト！コンテナが来る」

「え！では、全員に退避命令を！」

「もう遅い！後方からチャフを打つてEXウェポンの使用許可を求める！」

「待ってください！まだ伝え終えてません。

静止を振り切り、グレネードランチャーを全弾打つ

「後で、始末書でも謹慎処分でも良いから使用許可を！」

声を荒げて言い放つ。

コンテナ落下地点付近

意識が覚醒する。

直ぐ様、体を起こし防壁に身体を隠し通信する。

「HQ 〈p.i——gaga〉 まだ、チャフが舞っているのか？」

防壁の前方で、爆発音がする。

「なんだ！ 地雷がまだ埋まつてたか？」

そちらを、確認すると異形が立つている。

「G4かよ！」

防壁に身を隠す。

「ヒューマギアとG4つてあいつら何を考えてやがる」

銃を向けて交戦する。

「硬い、怯まないで歩いてくるだと！」

内心ターミネーターに、追われる感覚なのだと思う。

特殊スマートグレネード投げ後退する。

〈p.i——gaga〉ちらスカウト聞こえるか？

「こちらアサルト聞こえているが今敵と遭遇して後退しているところだ！」

〈なら見晴らしい所に出てくれ！ 座標は、送る

逃げながら、腕の端末で確認する。

〈あと・・・

通信で、作戦内容が伝わり自然に笑みを浮かべる。

後方支援地点

待つ息をひそめて、ただ獲物を待つのみ。

〈ヒー!! ノ。Δ。ヽ、3体もいるのかよ！ 逃げるんだよオ！

内心ざまーと思うが騒ぎを起こして誘導するのがあのバカの仕事だ。

「HQ G4タイプを3体、誘導中 標的を確実に撃破する為にEX

ウェポンの使用する

EX02【レールガン】を準備する。

見晴らし場所

逃げる逃げる3体もいるのかよ。

アーマースーツ身体能力強化で、1体の攻撃を素早く避け後ろに回

る。

「はつ木偶人形が！なつ！それ卑怯」

G 4が上半身が180度回る掴もうとしてくるが、腕を掴み相手の体重を使い投げ飛ばす。

「おい、まだか！」

「へ・・・・

「ちつ」バンバンバン

アサルトライフルの弾が切れ、ドラムマガジンを捨て予備30発マガジンに見える。

敵がこちらに詰めてくる。

△こちらHQ EXウェポン使用解禁

「それを待つてた」

EX01【リボルバー】をアサルトライフルに入れ替える。

「3で割れるのは、良いな」

敵に2発ずつ打ち込む。

敵が掴もうとしてくるが、余裕もって待つ、敵の動きが突然止まる。

「後は、任せたぞ」

△了解△

敵が次々と打ち貫かれる。

「敵の撃破完了これより帰還する」

△戦闘終了これより帰還する。

2人が同時に報告する。

報告レポート

【朝鮮半島 元非武装地帯 現在異門「ゲート」防衛区域】

今回の防衛戦

撃破

ヒューマギア「トリロバイトマギア」 300体

G 4型 ヒューマギア 3体

被害なし

*但し敵が最終決戦時のG 4を投下を本部は、重く見ていてます。
以上レポートを終了します。

真実

最後の時、頭によぎる彼女と初めて会つた日を・・・森の中で彼女は、笑い私を見つめて立つて居た。

「この世界は、全てが？だよ」

それが彼女との出会いだつた。

始まりと終わり似ているようで全く違う物

【50年前・沖縄本島奪還作戦】

「撃て！前に進め！」

生きている物すべてが森の枝に心臓を突かれてる。

「中枢部があるはずだ！そこ・・・」

声が途切れる。叫び声さえもあげれない速度で仲間が狩られていく。

「ハアハアまだなのか！」

森を走り抜けて行く兵士が1人

デバイスで位置を確認して、中枢部に着いた事を確認する。

「ハアハアハーハー！」

上がる息を整えて周りを確認するが目標が確認出来ない。

「本部 ポイントに到着したがターゲットを確認出来ない」

^g a a g a g a g a

希望にすがる様に通信するが、森に突入してから繋がらないのを心が理解できない。

「本部 ターゲットを確認出来ない・・・返答を求む」

涙が滲み出てくる。唇を噛んで良い方向に思考を無理矢理変える。空気を切り裂く音で気がつくが武器の弾が切れていた。

素早くサイドアーム（拳銃）に切り替え応戦する。

弾が足りない。これだと今までの犠牲の意味が・・・
考えるよりも先に枝が襲つてくる。

拳銃が無くなり逃げ回る。

思考回路は、応戦より撤退を優先するが最後の手段を考える。
360度全てが枝に囲まれた。

ナイフを出して威嚇する。

枝が、リアクションして一時的に引くが絶望的な状況に自害を思考する。

喉元にナイフ突き刺そうした時

「いや、死んだら意味ないでしょ」

刺そうとしたナイフが消えて少女が現れる。

「森は、君を保護しようとしてるんだよ」

あり得ないと思うが声が出せない。

「ん？あー声が出ないのか？あれ、ナイフ消しただけね」

周りが白一色になり始める。

なんだこれは、なんだ！困惑する感情が加速すると同時に少女が喋りだす。

「これね！」

周りを見渡して、説明を始める少女

「この世界は、全てが？だよ」

そう言つて、笑みを浮かべる少女

男の何かに気が付いて問い合わせ始める。

「抗う？それとも忘れて、この仮初で生きていく？」

好奇心？復讐、後悔が入り乱れる感情を超える虚空に襲われる。

「あら？壊れちゃった？」

少女は、面白く無い様に顔を顰める。

いや違う！こんなのこいつが悪魔でも神で良い！

「ん？へー気合いあるね！これまでの奴らは、あきらめたのに」嬉しそうに笑う

「気にいった！なら教えようこの世界の私からの視点を」

最初は、何度もうなずき考え込みそして、笑みを見せ応える。

これは、終わりの始まり

オリジン側 防衛記録02

レイブン部隊 100人 エンブレム八咫烏 所属日本国ア
メリカ奪還後 國際連合特務部隊

ゲート（門）同時破壊決戦の時に、最も過酷な日本エリアに奪還し
た実行部隊

新型武器装備の実験台に進んでなつた部隊【後のEXウェポン、
標準型アーマースーツ装備】

敵勢力の拠点及び兵器の破壊数は、総合的に100万と言う統計で
ある。

その実力は折り紙付きだが、当時の自衛隊、米軍の特殊作戦部隊も
超える狂った訓練も有名な話である。

*例

装備実験（仮）

【試作装備を装着して、アンチマテリアルライフル M1エイブラムスなので対象を打ち抜く】

結果

騒ぎを聞きつけた職員より装着者を、緊急医療検査

結果 極度の緊張による気絶及び外傷内蔵に負傷なし 本部は、こ
の結果及びパラシユート無しHALO降下をアメリカ奪還作戦時に
独断実施しため標準装備した。

武器実験（仮）

【試作型武器を無断改造（製造ライン及び開発部まで行き）】

結果

怪我の功名（アメリカ奪還作戦で、ゲート（門）対して無断改造し
た武器システムより新たなバリンジャー級・クレーターガカナダに出
来る）

この部隊の参加者は、全員ほぼ無傷の状態であった。

損害

カナダにバリンジャー級・クレーター以外の目立つ損害無し

*レイブン部隊が、盾と先行したのも一因

本部は、この被害より新型武器をEXウェポンと呼称 レベル5
(最高) 使用制限を設ける。(改造成良の許可申請制にする)

部隊原則

初代隊長 * 沖縄本島奪還作戦にて行方不明

ゲート(門)を如何なる犠牲を出しても破壊又は、停止

2代目隊長 * 副隊長と自分で名乗っている。

先陣を切つて仲間の壁となり、生き残る為に戦い抜く。

現在

実質解散したが、ほぼ全員が前線で現役

【防衛拠点の現状】 【沖縄本島】

現在は、ヘルヘイムの森(仮)に囲まれている。
通常生存者は無し

ただし【黒き姫】が確認の生存が確認されている。

【アメリカ大陸】

カナダにバリンジャーラー級・クレーター以外の目立つ損害無し

*バリンジャーラークレーター 直径約1・2キロメートル、深さ200メートル

【ロシア・中国】

初期に国境沿いに複数のゲートを確認するが研究を優先

*技術を手に入れるが、両国人口の3分の1が謎の死亡する。

【朝鮮半島】

同時ゲート破壊作戦でゲート破壊したが、元非武装地帯で破壊した
が空間が不安定的に時々ゲートを精製

今でも敵が現れる。

【中東】

ゲートよつて、一番被害が多く核兵器によつて多くのゲートを破壊
したが汚染が深刻な状況

【北極・南極】

ゲートないが避難区域指定
ゲートの理論から作られたゲートを、火星及びコロニーに避難して
いる。